

令和4年度 第2回 立川市多文化共生推進委員会 会議録（要旨）

■開催日時 令和4年11月14日（月） 午後7時～午後8時30分

■開催場所 立川市役所 2階 209会議室

■出席者 <委員>細江委員長、木下副委員長、猿渡委員、森田委員、李委員
<事務局>比留間市民協働課長、早野多文化共生係長

■傍聴者 2名

■次第

1. 開 会

2. 議題

（1）立川市第4次多文化共生推進プランの進捗状況について

（2）第5次多文化共生推進プランに向けて

（3）その他

3. 今後の日程について

■配布資料

1. 第4次多文化共生推進プランの検証・評価

2. 第5次多文化共生推進プラン策定に向けた今後のスケジュール

3. 立川市 在住外国人意向調査 質問票（平成30年度実施分）

■会議内容（要旨）

1. 開 会

委員長より、会議の成立、会議の公開について説明

2. 議 題

（1）立川市第4次多文化共生推進プランの進捗状況について

<事務局>

・当委員会は、プランに基づく施策の検証・評価について協議することになっており、委員会終了時に、いただいたご意見等を報告書としてまとめているため、今回と次回で皆様にご意見をいただきたい。

・今回は、柱1「外国人市民のコミュニケーション支援」と柱3「多文化共生の地域づくり」について、次回は、柱2「外国人市民の生活支援」、柱4「多文化共生の推進体制の整備」についてご意見を伺う。

「立川市第4次多文化共生推進プラン」について、施策の柱ごとに検証する。

●施策の柱1：「外国人市民のコミュニケーション支援」

○施策1「情報の多言語化と情報伝達手段の確保」

<委員>

・プッシュ型情報提供手段として導入を検討していた通訳機能を標準実装したラインアプリについて質問

・市役所内の通訳・翻訳サービスについて、三者間の通話サービスの使用実績について質問

・外国人の相談窓口の周知について、転入時の案内配布について質問

・中国語は簡体字と繁体字があり、書き方が違うため読めない文字もあるので、2つの種類を提供してもらいたい。ブラウザはツールで変換できるかもしれないが、紙の調査票などは読みにくい。

<事務局>

・令和4年10月に稼働したラインアプリによるプッシュ型情報提供については、多言語対応は不可と説明

・令和6年度の立川市のホームページの更新について、多言語、フリガナ、やさしい日本語の対応等を引き続き検討していく。

・市役所内では、外国語ができる職員の登録、つながり創生財団や出入国在留管理庁で実施している電話を使用した通訳サービス、UDトーク等のアプリを使用して、外国人の窓口対応をしている。

・転入時に、外国人の相談窓口や日本語教室の案内等をまとめたものを配布することを検討している。

○施策2「日本語と日本社会に関する学習支援」

<委員>

- ・たちかわ多文化共生センターより、子ども日本語教室について報告。小学生9名、中学生5名が、学校や市役所から紹介されて通っている。
- ・日本語教室は今後受講者が増加することが予測されるので、会場を確保してほしい。
- ・大人は立川国際友好協会、中学生までの子は子ども日本語教室を案内するという仕切りになっている。
- ・立川市の図書館では多くの外国語の資料を所蔵しているので、外国人へもっと周知をした方がよい。

<事務局>

- ・施設の改修等もあり、1つの事業で毎週施設を予約することは難しい

●施策の柱3：「多文化共生の地域づくり」

○施策7「地域社会での多文化共生の意識啓発」

<委員>

- ・たちかわ多文化共生センターより、世界ふれあい祭の実施と、多文化共生のひろばの開催について報告
- ・イベント等の外国人への周知について、個人情報の取り扱いもあると思うが、もう少し柔軟に対応してほしい。

○施策8「外国人市民の自立と地域社会への参加の促進」

<委員>

- ・なぜ自治会に入るのか、自治会に入るメリットなどを理解してもらえれば参加したくなるかもしれない。
- ・地域懇談会は顔が見えるので入りやすいのではないか。
- ・外国人が多く住んでいる団地の方と、市や自治会の方を含めて、TMCやTIFAが関わって、協力できるとよい。
- ・子ども日本語教室は、主体はTMCだが、実際に動いている方の中にはTIFAの方や、公募で来た方もたくさんいる。自分たちが何をしたいのかということを本当に理解してもらえれば、連携してくれる方が出てくるとことを実感できた。今後も連携を進めていかなくてはいけないと思う。
- ・優秀な人材がたくさんいることがわかった。狭いところに閉じこもらず、できるだけオープンにしていくのがいいと思った。
- ・日本語教室でも、教える人、教えられる人ということだけでなく、活動を通じて外国出身の方にもお手伝いをしてもらったり一緒にイベントを作ったりすることを心がけていった方がいいと思っている。

<事務局>

・日本人も含めた自治会の加入率が 37%である。外国人が自治会に入るには課題が多いが、お互いの理解が必要となってくる。

○施策 9 「市内標識等の多言語化」

<委員>

- ・QRコードを読み込むと多言語のページを見られるものがあり便利である。
- ・立川駅に、迷ったときに目印になるような場所があるとよい。

○施策 10 「市民主体の多文化共生・国際交流活動の支援」

<委員>

- ・令和 5 年度のサンバーナディノ市派遣高校生事業は中止になった。令和 6 年度の実施に向けて準備を始めている。
- ・ニューカレドニアと柏小の交流事業について報告。令和 3 年度は 1 回、令和 4 年度は 3 回オンラインで交流事業を行った。

(2) 第 5 次多文化共生推進プランに向けて

<事務局>

- ・「第 5 次多文化共生推進プラン策定に向けた今後のスケジュール」について説明
- ・プランの基礎資料とするため、令和 5 年度に立川市在住外国人対象の意向調査アンケートを実施する。
- ・アンケートの内容等について、次回ご意見を伺うので前回の質問票を確認しておいていただきたい。

(3) その他

<事務局>

○ウクライナの避難民について報告

- ・9 月中旬に東京都から、都営団地に 5 世帯分の住居を確保したとの連絡があったが、その後連絡はなく、現在立川市へ入ってきていない。
- ・庁内の役割分担は、施策のまとめは企画政策課、相談関係は市民協働課で、TMC や TIFA と相談しながら対応する。
- ・都内避難民の人数：519 人（10/31 時点）＜出入国在留管理庁＞

<委員>

- ・立川国際友好協会より、西砂教室はOBやOGも含め協力していく。
- ・つながり創生財団より立川国際友好協会に、昭島市の避難民を立川市の日本語教室で受入れできないかと相談があったが、現状ではフリーのボランティアはいないこと、昭島市で会場を用意してもらえれば、講師を派遣することは可能と回答した。

3. 今後の日程について

【次回日程】 令和6年度5月頃開催（予定）